

目次

I	はじめに			3	読むこと (小学校)		
	名古屋国語教育研究会長 橋本吉太郎				宮根小	樋口 稜太	53
					東白壁小	西垣 彩紫	55
					明倫小	魚崎 祥奈	57
					楠小	南 皓介	59
					栄生小	濱崎 譲	61
					諏訪小	高取 拓三	63
					柳小	谷田 有輝	65
					千成小	兼平 康成	67
					鶴舞小	吉田 裕幸	69
					村雲小	山本 貴紀	71
					伊勝小	村田 友香	73
					豊岡小	伊藤 隆	75
					大宝小	西山 真奈	77
					大宝小	西脇 陽介	79
					明治小	与那覇 大規	81
					大生小	西脇 僚	83
					宝小	榊原 裕真	85
					浦里小	浅野 由莉	87
					西山小	川出 祐樹	89
					名東小	川嶋 大介	91
					原小	富田 崇裕	93
				4	読むこと (中学校)		
					城山中	原田 三咲	95
					若水中	上條 貴史	97
					山田東中	清本 直樹	99
					白山中	田中 直之	101
					津賀田中	水迫 宏明	103
					山王中	河村 仁美	105
					大江中	酒徳 有衣	107
					森孝中	帯金 徹	109
				5	言語		
					東丘小	横井 麻乃	111
					相原小	永井 みさき	113
					本郷小	大久保 友貴	115
II	研究報告						
	1 話すこと・聞くこと						
	内山小	金田 真佑	1				
	田代小	望月 健太郎	3				
	中小田井小	岡田 拓未	5				
	牧野小	水原 悠輔	7				
	村雲小	小塚 達也	9				
	野立小	釘本 優哉	11				
	千音寺小	倉知 なつき	13				
	守山小	大澤 佳枝	15				
	有松小	長坂 耕司	17				
	浦里小	纈纈 祐輝	19				
	極楽小	藤井 雄介	21				
	植田南小	畠山 美砂	23				
	日比野中	伊藤 光輝	25				
	昭和橋中	佐藤 利治	27				
	2 書くこと						
	楠西小	厚東 彩	29				
	辻小	近藤 雄介	31				
	千年小	佐藤 和輝	33				
	西前田小	千葉 泰弘	35				
	有松小	橋詰 玄生	37				
	桶狭間小	横江 陽紀	39				
	桃山小	和田 征久	41				
	南陵小	本多 裕太郎	43				
	西山小	門田 明久	45				
	西山小	川瀬 賢太郎	47				
	西山小	三井 惇生	49				
	原小	児山 祥穂	51				

III あとがき (編集委員名簿)

研究を進める楽しさ

名古屋国語教育研究会会長

橋本 吉太郎

はじめにコロナ禍の中、よりよい授業づくりのために研究に取り組みました先生方、その指導者の先生方に心より敬意を表します。昨年度は、研究発表会は残念ながら紙上発表となりました。今年度も、同様な状況が続く中、リモートによる開催にご尽力された先生方、運営委員の先生方、助言をいただき校長先生方には深く感謝いたします。

授業研究を進める中で、教師として励みになること、ときめくこと、はがゆいこと等、心を動かされることが、本会に参加される先生方には数多くあることと思います。

私にも心を動かされることがありました。社会科の学年主任の先生から、「生徒が国語の授業が楽しいと言うのを初めて聞いた。」と言われたことは忘れられません。初任校の頃、雑談で生徒の笑いを取っていた自分が、生徒が考え、活動する授業へと工夫を重ねるようになっていたので大きな励みになりました。

「故郷」の授業で、生徒が「宏児と水生、私と閩土と対比して書いているのは、作者が自己批判している表現だと思う。」という発言に、生徒の成長を感じ取り、感動したことがありました。また、「大人になれなかった弟たちに」の授業検討の会では、ヒロユキや母の姿にその場の全員に熱い思いがこみ上げ、涙を耐えながら話しても言葉にならず、一旦、休憩を入れたことがありました。

一方で、研究や授業の経験を重ねてきた結果、気づかない間に、自分の授業には、充実した内容も理屈もあると奢っていた頃がありました。今、思い出すと生徒に大変に申し訳なく、胸をかきむしりたい気持ちになります。校長になって道德の授業をしたことがありました。しかし、授業の事前研究が全く不足しており、発問が生徒の実態からかけ離れていたようで意見を引き出して深めることができませんでした。

「授業は、教師が仕組み、子どもがつくる」と心がけてきた自分の授業を振り返ると、よかったと思える授業、悔いの残る授業とを繰り返し、授業をよりよいものへと努力してきて自分の授業力が高まったと思っています。

タブレット端末が一人に一台配備された教室で、自分はどんな授業を考えたのだろうかと思うと楽しくなります。学習指導要領の「情報の扱いに関する事項」を基にして、授業で扱う言語対象を情報のデータとして子どもに操作させてみたらと考えることでわくわくします。実際は、思うよりも難しいのでしょうか。しかし、言葉のデータ化というグーグルが検索エンジンで行い、ビッグデータとして活用していることを思うと、私は自分なりのチャレンジを試してみたいくなります。

閑話休題 ― 本会に参加される先生方は、授業を研究して作り上げていくことの面白さ、楽しさ、苦しさ、つらさなどをエネルギーにして益々授業をよいものとされると思います。

今年の研究発表会の成果も共有され、国語好きの子どもが増えることを願います。